

青少協だより

第184号

令和6年11月1日発行
愛別町青少年育成協議会

【地域学校協働活動報告】

我が愛別町の**達人**が愛小児童へ「**技**」を伝授!!

〜本物に触れる貴重な機会やマラソン大会安全確保に

地域ボランティアが大活躍〜

愛別小学校では、地域の優れた指導者とのふれあいの中で、愛別のよさを実感したり、再確認することを目的として、「達人クラブ」活動が行われており、本年度は8月30日、9月13日、27日の3回実施されました。

活動は、「地域学校協働活動ボランティア」登録の10組(11名)の方が講師(達人)となり、4年生から6年生にご自

= 達人(講師)の皆様 =

- ① 木 工 : 奥 俊博 様
- ② 将 棋 : 横田 博 様
- ③ 写 真 : 谷合 恵輔 様
- ④ 裁 縫 : 作田 美樹 様
- ⑤ 押 し 花 : 片桐 文子 様
- ⑥ 書 道 : 栗本万由 様
- ⑦ ド ラ ム : 上北 泰志 様
- ⑧ ゆ る 体 操 : 古屋 弘美 様
- ⑨ スポーツ吹矢 : 西條 ひろ子 様
- ⑩ フォアテニシング : 吉澤 鴻廉 様
- 〃 坂上 博亮 様

= マラソン大会協力員 =

- ⑪ 中野 進様・横田 博様



身の技(経験)をご指導(伝授)頂くもので、本年度は4名の方が新たにご登録を頂いたことで、より一層体験活動の幅を広げることができました。参加児童に「何が一番楽しかったですか?」と尋ねると、瞳をキラキラ輝かせながら「全部」、「また、やつてみたい」等との回答があり、未知なる取組へのワクワク感や活動の充実感を垣間見ることができました。



また、9月26日(木)には、「2024マラソン大会」が開催され、同登録ボランティア2名により、コース内での安全確保と激励のご協力を頂きました。同じ愛別町に住んでいる方々と直に接し、教えて頂いたり、また、激励を受けることは、子供達にとって貴重な経験の一つになるかと思えます。是非、本紙ご覧の方で、培われたご経験を愛別町の子供達へお裾分け頂ける場合には、随時ボランティア登録を受けておりますので、ご連絡の程宜しくお願い致します。

〔事務局〕 ☎6-5115



「車中泊旅行」



(家庭部会) 上村 里佳

〔愛別町PTA連合会副会長〕

わが家では、2020年から毎年一回私
子供2人の計3人で車中泊旅行をしてい
ます。

残念ながら父親は、仕事の都合上なか
なか参加できていません。

毎日毎日がガミガミ怒ってばかりで、子
供達にストレスかけてるんじゃないか？
やりたくない!!と言われ続けても、や
らせ続けている剣道。少しでも楽しいと
思ってもらえ、ストレス発散になってくれ
ればと思ひ、毎年恒例のように続けてき
ました。

でも上の子が6年生に
なり、来年はもう中学生



です。車の中で寝れるサイズじゃなくな
ってくるかな？今年最後かな？と思ひ、
行きたい所へ連れて行こう!!子供達に
尋ねたら、なんと「知床へ行きたい!!」。
なんて遠い所へ行きたいなんて。今年も
頑張って車を走らせました。

いつも車中では、ゲーム・DVD観賞・お
やつ三昧の子供達。少しぐらいは風景を
楽しんで欲しいと思う母の気持ちは伝

わらず、自由に過ごす子供達……

車中泊の旅行で、一番成長を感じられた
のが温泉(お風呂)です。

最初の頃は、私と3人で女風呂に入っ
ていましたが、段々と一緒に入れなくなり、
兄弟2人で男湯へ入るようになり、上の
子が下の子の面倒を見てくれるようにな
りました。(自宅でお風呂に入る時は、あ
まり一緒に入りたがらないのですが……)
2人で仲良くお風呂に
入り、ニコニコ笑顔で
ジュースを飲んで
車戻る。



子供達を喜ばせる為に始めた車中泊
旅行でしたが、気がつけば、私の子供達と
一緒にいるのが楽しくて毎回やっている
んだなあ、最近感じます。子供達が成長
し大人になった時、笑いながら車中泊の旅
行の話ができた嬉しな思っています。

《会員寄稿》

「体験活動の意義」とは

(育成環境部会) 村澤 泰志

〔愛別町立愛別中学校長〕

めまぐるしく変化する社会において、
昨今ではICTが飛躍的に普及し、令和の

時代、全国の小中学校にもGIGAスクー
ル構想のなか児童生徒に一人一台の端末
が行き届いている今日この頃です。

思い起こすこと40年以上前、私が小
中学生の頃は、今のように進歩をとげる
社会の姿はアニメか漫画の中の出来事
でした。今の時代が優れているとか、過去の
自分の時代(昭和)の方が味があつて良か
つたとかを述べるつもりはありません。
ただ、時を経た今あの頃を思い出す
と、懐かしさの中にも体験的な活動に直
に触れる機会が、確かに今よりも多かつ
たように感じています。

私事ですが、学習道具と言えば、ノート
と鉛筆、消しゴムを駆使してまとめてい
たものです。今のタブレットのように、デ
ジタルペンで書き込みや瞬時修正など、当
時にしたらマジックでも見ているように
感じたことでしょう。調べ学習も、何冊も

の書籍を図書室からかき集め、また知識
のある方から情報を仕入れるなど、足を
運んだものでしたが、今やインターネッ
トの専門サイトで、知りたい情報が瞬時
に、また山のように溢れています。

子どもたちの遊びは、屋外での活動が
多かったと記憶しています。近所の仲間
たちと、住宅街の(今ほど自家用車の通行
のない)道路が「かん蹴り」や「鬼ごっこ」

などの色々な遊び場でした。近くに田ん
ぼや空き地、小高い山があり学校から帰
宅後夕暮れまで虫取りや基地遊び、冬期
はミニスキーやそり滑りなどをしたこ
とを思い出します。その分、よくけがも
しました。(笑)

今の子どもたちは、幼少期から専門性
を身につける機会も多くなってきました。
遊びも室内に移行し、部屋に一人でも
ネット環境の中でゲームの対戦相手や仲
間を集つことが当たり前のようになり、
機材一つで様々な疑似体験も容易にでき
るようになりました。

豊富な情報量と、簡単に自分の余暇を
過ごすことのできる技術の進歩で、時間
を有効に使うことができることはこの時
代において本当に素晴らしいことだと思
っています。

一方で、学校では豊かな自然や文化地
域の産業等の教育資源を活用して、児童
生徒が様々な体験活動に触れる機会の重
要性も求められています。擬似的な体験
ではなく、児童生徒が多様な他者と交流
するなかで、困難に立ち向かい、様々な体
験活動を通して、豊かな心を持ち、たく
ましく生きる力を育てていけるよう、地
域の皆様方のお力添えを今後ともよろ
しくお願い申し上げます。